



日本保全学会

東北・北海道支部
ニュースレター No.41

2026.1

Editor

日本保全学会
東北・北海道支部
広報・会員委員会

Contact

Mail :
north.com@jsm.or.jp

Tel & Fax :
022-211-9889

Address :
〒980-8577
仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学 流体科学研究所
内一研究室内

URL :
www.jsm.or.jp/branch/index.html

日本保全学会 東北・北海道支部 「第7回保全技術交流会」 開催のご報告

日本保全学会 東北・北海道支部が主催する「第7回保全技術交流会」が2025年12月22日に宮城県仙台市の東北電力本店で開催され、翌日の12月23日には本交流会の一部として同県女川町の「女川原子力PRセンター」および「女川原子力発電所」の見学会も実施されました。

本交流会は、現場で培われた保全技術やノウハウなどの保全技術情報を共有し、実務者同士の交流を促進することを目的に企画されたものです。参加者は総勢42名となり、年末の仙台らしい冷たい空気の中での開催ではありましたが、会場では各発表を踏まえた活発な質疑や意見交換が行われました。参加者がそれぞれの現場での課題や取組内容を持ち寄ることで、互いの理解を深める有意義な機会となりました。

保全技術交流会の構成は、第1部の保全技術交流会、第2部の情報交換会、第3部の見学会として実施されました。

<第1部 保全技術交流会>

保全技術交流会の開始にあたり、当交流会の担当委員会である日本保全学会東北・北海道支部 研究委員会委員長の東北大学小川先生より開会の挨拶をいただきました。



会場の様子



小川先生の挨拶の様子

保全技術交流会の発表に先立ち、東北電力の林氏より、2日目の見学会で訪問する女川原子力発電所に関して、「女川原子力発電所2号機の安全性向上の取り組みについて－再稼働と今後に向けて－」と題した講演が行われました。

本講演では、2024年11月に再稼働した女川原子力発電所2号機について、再稼働に向けて実施してきた各種安全対策工事や長期停止期間中に実施した設備点検など、これまでの主な取り組みが紹介されました。

併せて、今後の保全活動として、設備の点検周期や点検内容の最適化の必要性、さらには運転開始30年経過以降の「特別点検」に向けた検討など、継続的な安全確保に向けた保全活動上の検討課題についても説明がありました。



JAPAN SOCIETY OF MAINTENANCE

日本保全学会

東北・北海道支部
ニュースレター No.41

2026.1

Editor

日本保全学会
東北・北海道支部
広報・会員委員会

Contact

Mail :
north.com@jsm.or.jp
Tel & Fax :
022-211-9889
Address :
〒980-8577
仙台市青葉区片平2-1-1
東北大學 流体科学研究所
内一研究室
URL :
www.jsm.or.jp/branch/index.html



東北電力㈱ 林氏の講演時の様子

その後以下の全5件の発表が、東北大学の内一先生、小川先生の座長のもと行われました。

発表1 泊発電所雑固体焼却設備排ガスプロワの振動低減対策について
北海道電力㈱ 坂本氏

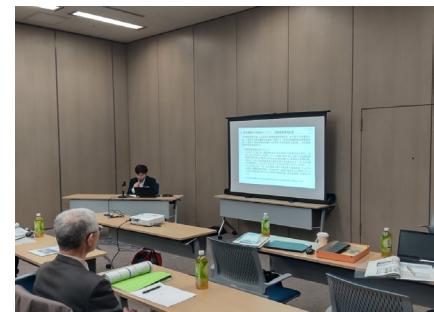
発表2 xR技術による機器補修訓練計画について
㈱ジェイテック 坂本氏

発表3 「止水・溢水処理(コーリング作業)」における治具の開発について
東北発電工業㈱ 佐藤氏

発表4 再稼働関連工事による設備数増加を踏まえた保全最適化の
取り組みについて 東北電力㈱ 粟津氏

発表5 孔内探査車を使用した排水管点検技術の紹介
㈱ジェイテック 高沢氏

各発表は、現場で直面する課題に即した実践的な内容であり、各社の創意工夫や改善事例が随所に見られました。発表後には、質疑応答や意見交換が活発に行われ、参加者同士がお互いに知見を深める貴重な機会となりました。



保全技術交流会

発表の様子



JAPAN SOCIETY OF MAINTENANCE

日本保全学会

東北・北海道支部

ニュースレター No.41

2026.1

Editor

日本保全学会
東北・北海道支部
広報・会員委員会

Contact

Mail :
north.com@jsm.or.jp

Tel & Fax :
022-211-9889

Address :
〒980-8577
仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学 流体科学研究所
内一研究室内

URL :
www.jsm.or.jp/branch/index.html

最後に、研究委員長の東北大学小川先生より「大学研究課題とのマッチング説明」が行われました。説明の中では、海岸環境下で腐食が進みやすい排気筒に対し、下地処理に依存しにくく施工性・耐食性向上が期待されるコールドスプレー技術を用いた保全品質向上に関する研究例も紹介され、実構造物への適用に向けた取り組みが示されました。

また、小川先生からは、各事業者の技術的課題に対し、大学の研究課題や知見を活用して解決を支援する活動を進めているため、困りごとがあれば日本保全学会東北・北海道支部に連絡いただきたいとの案内がありました。

本交流会を締めくくるにあたり、日本保全学会 東北・北海道支部 支部長の東北大学の内一先生より全体を通しての講評をいただきました。



小川先生による大学研究課題とのマッチング説明の様子

<第2部 情報交換会>

第1部終了後、場所を移し情報交換会が行われました。東北電力の阿部氏の挨拶と乾杯で幕を開け、参加者は席を自由に移動しながら、業務や技術に関する率直な意見交換を行いました。

普段は接点の少ない事業者間での交流が活発に行われ、ネットワーク構築の場として大きな意義を持つ時間となりました。最後は東北電力の亀岡氏より閉会の挨拶と「伊達の一本締め（仙台・宮城地方で行われるお祝い・締めの際の独特的な手締め）」で情報交換会を終了しました。



情報交換会の様子



日本保全学会

東北・北海道支部
ニュースレター No.41

2026.1

Editor

日本保全学会
東北・北海道支部
広報・会員委員会

Contact

Mail :
north.com@jsm.or.jp

Tel & Fax :
022-211-9889

Address :
〒980-8577
仙台市青葉区片平2-1-1
東北大大学 流体科学研究所
内一研究室内

URL :
www.jsm.or.jp/branch/index.html

<第3部 見学会>

翌日の12月23日(火)には17名の方々が参加し、仙台市から女川町に移動し、「女川原子力PRセンター」および「女川原子力発電所」の見学会が行われました。

女川原子力PRセンターでは、女川原子力発電所の東日本大震災発生時の状況、東京電力福島第一原子力発電所事故を踏まえた女川原子力発電所2号機の安全対策工事の全体像の説明などが行われ、参加者は非常に興味深く話を聞いておられました。

続いて発電所構内をバスで巡り、防潮堤、淡水貯水槽、可搬型重大事故等対処設備の保管エリアなどの実際の安全対策設備を見学しました。発電所構内を一巡しPRセンター戻り、VRゴーグルを用いた360度映像で建屋内部の安全対策設備を体験するなど、最新技術を活用した見学も行われました。



女川原子力PRセンターにおける見学の様子



女川原子力PRセンターにおける集合写真

2日間を通じて、参加者からは「各社の改善活動が素晴らしい、自社での改善活動の参考となった」、「質疑応答も活発で、他の事業者とのコミュニケーションの場となり、大変有意義だった」といった声が寄せられ、充実した交流会となりました。

(東北電力株式会社 大江公彦)